

ナイラムダル歌壇

神 沢 有 三

持選

◎モンゴルとオノン教授の揮毫せし軸はわが家の床の間に座す

長野市 井 原 健

(評) 私の出生地群馬は、馬に関わる地名が多く、長野にも多い。また私たちがモンゴル草原を訪れる際、先ず目にするのは「オボ」であるが、群馬にも「オボ山」があり、長野にも「オボ山」がある。

そんな背景もあってオノン、井原両先生の親交進度ともいうべきものが、随分速かったことを、今回の井原先生からの沢山の弔歌などで知った。どの歌を特選に選んでもよいのであるが上記一首を特選とし、他は、5首ばかり、その後に列記したいと思う。

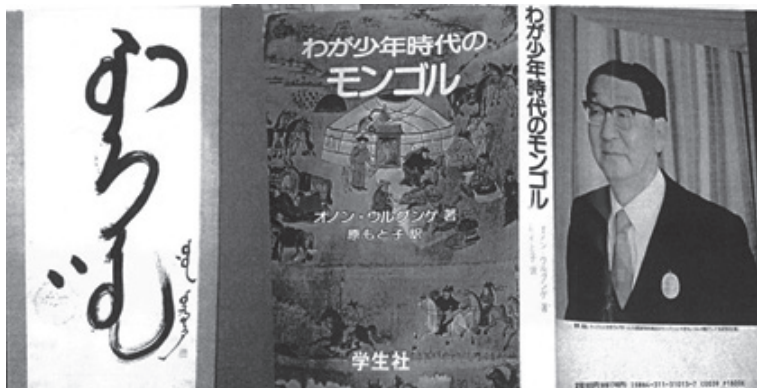
○導師の著、悼みて偲び読みかへす「わが少年時代のモンゴル」の著を

○「ゼミ会」で初めて会ひて三十余年^{みそよとせ}写し絵見つつ導師を偲ぶ

○今も尚わが床の間に鎮座する揮毫の大書 師の香ただよう

○ゼミ会も著書も大書もみな懐古オノン先生^{よみ}黄泉の国へと

○先生の揮毫の軸は吾が宝いまも未来も床の間に座す



特選

◎志賀(しかの)鳥(しま)思いもよらぬ蒙古塚遙か元寇悲しき歴史

あきる野市 木住野 陽 一

(評) この歌の作者は、志賀の島の蒙古塚の前に立ち、当協会とも大変縁の深い竜口山・常立寺の誰姿森(たがすのもり)の元使塚のことを思い出されたのではないかと思う。

○広大なモンゴル平原パオあればいかなる場でも癒しの我が家

(評) 学生時代、モンゴルでの初めての馬の旅で馬にバカにされ、馬は動かず、体は痛くなり半日ほど草原を歩き、早くパオが姿を現わしてくれないかな!と思った瞬間、パオが現われ、お茶を御馳走になり嬉しかったときのことを思い出した。

入選(佳作)

◎エベレスト・クンデピークの山頂でモンゴル草原険に浮かぶ

狭山市 村野 啓子

○ヒマラヤの山々を背にモンゴルの大草原が果てなく続く

(評) エベレストに登りながらモンゴル草原を偲ぶ、雄大な詠であり、特選にしたいところであるが、既に2名の特選が出ているので・・・。